

特集3 新名神高速道路の着実な建設

高速道路ネットワークを多重化し「未来につなぐ信頼の道」とするために

地域の皆さまとの対話に努めながら、早期全線開通に向け、事業を進めています。

NEXCO西日本では、1963年の栗東IC～尼崎IC間開通以来、日本の産業と社会を支えてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を格段に高めるべく、新名神高速道路の整備を進めています。

日本の新たな大動脈



渋滞を解消し、移動にかかる走行時間を大幅に短縮します。新名神高速道路とともに、三大都市圏をつなぐ日本の新たな大動脈の役割を果たします。

渋滞が多発する名神高速道路(大津～京都東間)

災害時のルート確保



自然災害や事故発生によって一方の道路が通行止めになった場合でも、道路ネットワークを途切れることなく維持し、人やものの流れが止まらないよう、サービスを提供し続けます。

阪神・淡路大震災で被害を受けた名神高速道路(尼崎～西宮間)



高槻ジャンクション (2014年6月)

渋滞多発地点

武庫川橋 (2014年4月)



神峰山トンネル (2014年6月)

Q.1 新名神の建設はどこまで進んでいるの？

A.1 2023年度の全線開通を目指して、着実に工事を進めています。

大津JCT～城陽JCT、八幡JCT～高槻JCT

2012年4月に事業許可を受け、準備が整ったところから設計協議を開始するとともに、用地取得に向けた準備を進めています。



設計協議

高槻JCT～神戸JCT

現在、工事着手率100%となり、土工、橋梁、トンネルの施工を行っています。区間最長の箕面トンネル(延長上り線4,994m、下り線4,979m)において東側から掘削を行い、2014年6月末現在で約1,400m進捗しています。



工事中の箕面トンネル

城陽JCT～八幡JCT

現在、工事着手率100%となり、土工、橋梁の施工を行っています。

木津川橋の下部工につきましては、渇水期に河川の切り替え工事を行い、河川内の橋脚工事の一部が現在完了しています。



工事中の木津川橋(2014年2月)

Q.2 「鶺鴒ヨシ原」保全の取り組みとして、何をしているの？

A.2 有識者による検討会を組織し、筆管用鶺鴒ヨシの保全を図っています。

新名神 八幡JCT～高槻JCT間が通過する淀川河川敷「鶺鴒ヨシ原」には、雅楽で演奏される筆管(ひちりき)の蘆舌(ろぜつ/吹き口)に取り付ける薄片で西洋管楽器のリードに相当)に用いられる良質なヨシが採取されている箇所があります。

当社は植物学や地下水の専門家などから構成される検討会を設置し、筆管用ヨシの生育調査や地下水・土壌調査などを実施しています。これまでの調査で、筆管用ヨシの採取範囲が新名神の下流側に約60m以上離れた範囲であることが確認でき、ヨシの生育状況・環境のほか、地下水によるヨシへの水分供給の実態などについて知見が深まりつつあります。

今後も、調査・試験の方針や結果などの情報を随時発信し、十分な説明に努めていきます。



検討会の様子



筆管(ひちりき)

社員コメント

NEXCO西日本

地域の皆さまへのご説明を丁寧に行いながら、事業を進めていきます



関西支社 新名神大阪東事務所長 諸富 正和

新名神大阪東事務所は、2012年に事業許可を受けた八幡JCT～高槻JCTの枚方市および高槻市域を担当しています。担当区間のうち、淀川河川敷にあり「鶺鴒ヨシ原」につきましては、その保全と新名神事業との両立に向け、外部の専門家のご意見をいただきながら、自然環境調査を実施し、保全策の検討を進めています。引き続き、慎重に検討を進め、その内容を広くお知らせしていく予定です。

また、計画路線の土地利用は市街化された住宅地から都市近郊部の農地や山林と多岐にわたっていますので、現在、環境調査や用地取得に向けた測量等を進めています。今後も、これらの調査結果を踏まえた道路構造等の事業内容について、地域の皆さまに丁寧な説明を行いながら、着実に事業を進めてまいります。